

専門基礎科目

「フードビジネス学」



科目担当教員

伊東 秀之 (保健福祉学部栄養学科 教授)

90分×16コマ

ゲスト講師陣

岡山県立大学保健福祉学部教員, ノートルダム清心女子大学教員, 中国学園大学教員, 岡山大学教員, 岡山理科大学教員, 岡山県農林水産総合センター, 岡山県工業技術センター, 全国農業協同組合連合会岡山県本部, 生活協同組合おかやまコープ, 農林水産省中国四国農政局, カモ井食品工業株式会社からゲスト講師を招へい予定

8月下旬～9月中旬
(平日に開講予定)集中講義：開講日は決定次第記載
します。

本講義では、岡山県の特産品の食資源開発力に基づく食品の生産、加工、流通、消費について、大学における共同研究、商品開発、食品業界の品質管理や経営の現場から、食品の川上から川下までのシステムについて具体例を挙げて講述します。広い視野から食の安心・安全、食品の研究開発や食品の生産、流通、消費の流れについて、理解を深めることを目的とします。

開講のねらい

食品の生産、加工、流通や機能性食品の研究開発食品に携わっている講師が、本講義で基礎知識および応用について指導し、共に議論しながら、食に係る業種や食生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。

関連キーワード

「機能性食品」、「食文化」、「環境問題」、「SDGs」、「エシカル」、「食料危機」、
「創造的思考・批判的思考・自律的思考・共同的思考」

受講形態

社会人
他大学学生対面またはオンデマンド
(対面推奨)

本学学生

対面のみ

教科書・テキスト等

適宜資料を提示もしくは配布します。

ディスカッションの
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	なし
ディスカッション 割合	なし
個人発表	なし
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の
留意事項

◆毎回、レポートの課題提出があります。

研究科クロスセクション科目

「地域経済をテリトリーから考える」



科目担当教員

杉山 慎策 (非常勤講師)

90分×8コマ

ゲスト講師陣

樋口 輝久 (岡山大学環境生命自然科学学域 准教授)
 山下 陽子 (語らい座大原本邸 館長)
 廣瀬 敬久 (日本銀行岡山支店長)

12月上旬～2月中旬
 (月曜日午後が開講予定)

開講日は決定次第記載します。

テリトリーとは、地域の文化、歴史、環境などを包括する概念です。「吉備の杜」に内包する歴史や文化を学び、先人の作り上げた文化や歴史をどのように未来につなげて行くかを研究することは今を生きる私たちの責務と考えます。

本講義では、「吉備の杜」を作り上げた代表的先人たちについて学び (KSF:Key Success Factor)、加えて現代の岡山の経済の概要を理解し、今後どのように岡山を発展させるかを議論します。

開講のねらい

吉備の国を作り上げた先人たちは現代の経営論についての知識はないが、実際には最新の経営論を見事に活用して吉備の杜の活性化のためのイノベーションを興している。その実践を学ぶことで経営理論をどのように現代に取り入れればよいかについて議論する。

関連キーワード

「イノベーション」、「選択と集中」、「ブランド化」、「創造性」

受講形態

社会人
他大学学生対面またはオンデマンド
(対面推奨)

本学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

教科書・テキスト等

適宜資料を提示もしくは配布します。

ディスカッションの
頻度・割合等

ディスカッション 頻度
 ディスカッション 割合
 個人発表
 チーム発表
 ロールプレイング
 受講に必要な知識や学習経験の有無
 オンデマンド受講の際の対応

| 1～2回程度
 | 30分程度
 | なし
 | 最終講義で課題についてチーム別の発表
 | なし
 | なし
 | 課題レポートを求め、コメントを加えて双方向の講義を目指す

受講上の
留意事項

◆第七回の講義はグループ別に全員で課題についてのディスカッションを行います。

研究科クロスセクション科目 「テクノロジーとビジネスの変革」



科目担当教員 小川 浩基 (非常勤講師)

90分×8コマ

ゲスト講師陣 なし

5月中旬～6月下旬
(土曜日に開講予定)

集中講義：開講日は決定次第記載
します。

インターネット、スマートフォンに代表されるデジタルテクノロジーが私たちの暮らしに大きな影響を与えています。テクノロジーにより、人々の消費行動は変わり、ビジネスも変化し続けています。講師が実体験してきた約半世紀のテクノロジーとビジネスの変革を中心に学び、来るべき、創るべき未来について受講者とともに考えます。

本講義では、未来に向けた洞察力や創造力を養い、グローバルな視野でビジネスや社会の変化に対応する力を身につけることを目的とします。

開講のねらい

進化の著しいテクノロジーの歩みとテクノロジーがもたらすビジネスの変化を学び、未来を創る人材として高い視座を獲得する。

関連キーワード

「テクノロジー」、「ビジネス」、「イノベーション」、「ベンチャー」、「未来」

受講形態

社会人
他大学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

本学学生

対面

教科書・テキスト等

適宜資料を提示もしくは配布します。

ディスカッションの
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	なし
ディスカッション 割合	なし
個人発表	質問にテキストで回答 (1限につき2-3回程度)
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の
留意事項

- ◆土曜日1, 2限の集中講義 (全4回) を行います。
- ◆各自が講義を通して感じた疑問点や興味を持った点について、簡単に調べて結果と感想をレポート提出していただきます。(1限ごと1テーマ、200-400字程度)

研究科クロスセクション科目 「デザイン思考」



科目担当教員

三原 鉄平 (デザイン学部工芸工業デザイン学科 教授)
 船山 俊克 (デザイン学部工芸工業デザイン学科 准教授)

90分×8コマ

ゲスト講師陣

嘉数 彰彦 (岡山県立大学 特命教授)

9月下旬～11月下旬
 (金曜日午後が開講予定)

開講日は決定次第記載します。

将来の予測が困難な「VUCAの時代」と呼ばれる現在、イノベーションとの親和性が高い「デザイン思考」への注目が高まっています。しかし「思考」と名づけられているが故に、しばしば思考法やフレームワークの一種だと誤認されています。

本講義では、デザイン思考が注目されるようになった社会的・歴史的背景を概観し、演習を通じてデザイン思考の各プロセスを経験することで、より実践的な知見とマインドセットを修得することを目的とします。

開講のねらい

1. デザイン思考の要諦を理解する
2. 問題発見力を高め、それを表現する手法を理解する
3. 解決のためのマインドセットを身に付ける

関連キーワード

「マインドセット」、「人間中心設計」、「グループワーク」、「アクティヴ・ラーニング」

受講形態

社会人
他大学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

本学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

教科書・テキスト等

使用しない

ディスカッションの
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	第3回～第7回
ディスカッション 割合	60分程度
個人発表	なし
チーム発表	あり
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の
留意事項

- ◆定員20名 ※定員に達し次第、早期に受付を終了することがあります
- ◆第3回以降の事前課題があります
- ◆オンラインツール(Slack等)を使用してのグループワークを行います

研究科クロスセクション科目

「時事と歴史を読む」



科目担当教員

末岡 浩治 (情報工学部情報通信工学科 教授)

90分×8コマ

ゲスト講師陣

中国銀行、山陽新聞、RSK山陽放送から
ゲスト講師を招へい予定11月下旬～2月上旬
(金曜日午前に開講予定)

開講日は決定次第記載します。

現代社会における諸問題は様々な要素が複雑に絡み合っているため、歴史的背景をふまえて論点を整理しないと、課題解決に向けた思考には結びつきません。

本講義では、半導体を例としたグローバルな物流、地域課題と地方創生、東京一極集中、国内外の教育問題、外交問題、雇用問題など現代社会の諸課題について、歴史を踏まえてその成因を理解し、課題の本質を探究することを学びます。さらに、正しい情報を得るための手段やコミュニケーションの重要性についても学びます。各講義では、課題解決を目指したグループワークを行い、その提案について講師も含めて討論します。

開講のねらい

1. 現代の諸課題を探究するうえで、体系的な歴史学習が必要であることを理解する
2. 現代の諸課題を解決するために必要な考え方を身に付ける
3. 課題について討論でき、その結果を基に自らの意見を述べる力を身に付ける

関連キーワード

「現代社会」、「時事問題」、「歴史」、「地方創生」、「批判的思考」

受講形態

社会人
他大学学生対面またはオンデマンド
(対面推奨)

本学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

教科書・テキスト等

適宜資料を提示もしくは配布します。

ディスカッションの
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	毎回
ディスカッション 割合	45分程度
個人発表	なし
チーム発表	あり
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の
留意事項

◆毎回、レポートの課題提出があります

研究科クロスセクション科目

「サステイナブルな社会に生きる」



科目担当教員

伊東 秀之 (保健福祉学部栄養学科 教授)

90分×8コマ

ゲスト講師陣

中国四国地方環境事務所、おひさまエナジーステーション(株)、真庭市総合政策課、おかやまコープ、岡山県環境文化部環境企画課 からゲスト講師を招へい予定

8月上旬～8月下旬
(平日に開講予定)

集中講義：開講日は決定次第記載
します。

食糧やエネルギーの諸外国への大きな依存や異常気象などの問題は持続可能な社会を構築する上での大きな障害となります。

本講義では、変動する社会、経済、環境問題に対し、環境に配慮した持続可能な社会やライフスタイルの実現に向けた基盤づくりを、SDGs・エネルギー問題・食糧問題の基礎知見を会得した上で、政府の重点課題や岡山県の取組み例から考え、課題解決に向けたワークショップを行い、その提案について講師も含めて議論します。

開講のねらい

行政などにおいて様々な環境問題やSDGsへの取組みの施策に携わっている講師が、本講義で基礎知識および応用について指導し、共に議論しながら、職業生活や社会生活に役立つ自律的思考、共同的思考、批判的思考、創造的思考の技法を養う。

関連キーワード

「持続可能な社会」、「環境問題」、「SDGs」、「ゼロカーボン」、「バイオエネルギー」、「エンカル」、「食料危機」、「創造的思考・批判的思考・自律的思考・共同的思考」

受講形態

社会人
他大学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

本学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

教科書・テキスト等

適宜資料を提示もしくは配布します。

ディスカッションの
頻度・割合等

ディスカッション	頻度		なし
ディスカッション	割合		なし
個人発表			なし
チーム発表			なし
ロールプレイング			なし
受講に必要な知識や学習経験の有無			なくてもよい

受講上の
留意事項

◆毎回、レポートの課題提出があります

研究科クロスセクション科目

「ローカル・イノベーション」



科目担当教員

田中 晃一（保健福祉学部栄養学科 教授）

90分×8コマ

ゲスト講師陣

全体進行：高山和成（一般社団法人ON-D0）
 第1回：岩満賢次（岡山県立大学保健福祉学部 教授）
 第7回：松原 龍之（岡山経済新聞 編集長）

9月下旬～11月下旬
 （月曜日午後が開講予定）

開講日は決定次第記載します。

「ローカル・イノベーション」は、地域の背景や文脈に合わせて行われるイノベーションと定義します。地域のニーズや課題に対応するために、その地域で有効な解決策やアイデアを生み出すプロセスを指します。例えば、特定の地域に存在する資源や技術の活用、伝統や文化に基づいた製品やサービスの開発、地域社会のニーズに応えるための新しいビジネスモデルの構築などが挙げられます。

本講義では、地域人材の育成に取り組む一般社団法人ON-D0の高山和成氏を招へいし、全国的な課題となっている人口減少、地方の存続危機に対し、地方での暮らしを維持し、かつその価値を高める活動・事業を行う「地域人材」の存在について実際の人物の在り様に触れ、地域が抱える課題を解決するための人材育成・取り組みについて論じます。

開講のねらい

地域の価値向上に資する人材とはどのようなものかについて、実際の人物についてマトリクスマッピングを行い、地域に必要な人材について検討する。

関連キーワード

「人口減少社会」、「地域課題解決」、「地域人材の育成」

受講形態

社会人
他大学学生対面またはオンデマンド
（対面推奨）

本学学生

対面またはオンデマンド
（対面推奨）

教科書・テキスト等

適宜資料を提示もしくは配布します。

ディスカッションの
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	毎回
ディスカッション 割合	60分程度
個人発表	あり（第6回）
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の
留意事項

◆第2回以降は、事前・事後の課題があります

研究科クロスセクション科目

「若手企業人材に必要な各種実践能力の養成」



科目担当教員

稲葉 英男 (非常勤講師)

90分×15コマ

ゲスト講師陣

なし

9月中旬～9月下旬

集中講義：開講日は決定次第記載
します。

第4次産業革命と言われる現代は、人工頭脳(AI)、IoTやDX技術などの発達で、「モノをどう作るか」のキャッチアップの時代から「何を造るか(創るか)」のフロントランナーの時代へと大きなパラダイムシフトに突入しています。

本講義では、若手企業人材として、高等教育機関で習得した基礎・応用知識などを如何にして知恵に変える「思考力」や知恵を実践するために必要な「対人力」と「組織で働く力」など関連能力の飛躍的伸長を目的としたもので、今後のさらに活躍するための企業などの若手人材育成教育の一環として体系的に実施します。

開講のねらい

企業などにおける若手人材の能力向上に向けて、思考法、対人力や組織活動に関して基礎から応用まで総合的な視野での人材育成を目指す。

関連キーワード

「高等教育から企業人などに対して常識として要求される各種基礎能力」、「仕事と脳の機能および記憶とメモ・ノート術」、「仕事技術として必要な基盤的な思考力の養成」、「実践的思考力の強化に向けて」、「対人スキルの基礎と応用」、「問題・課題の解決に向けての基本と実践」

受講形態

社会人
他大学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

本学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

教科書・テキスト等

適宜資料を提示もしくは配布します。

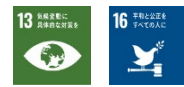
ディスカッションの
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	毎回
ディスカッション 割合	60分程度
個人発表	あり(第6回)
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の
留意事項

◆第2回以降は、事前・事後の課題があります

研究科クロスセクション科目 「災害医療援助論」



科目担当教員 未定 (非常勤講師)

90分×15コマ

ゲスト講師陣 アムダ (AMDA)、岡山県、総社市から
ゲスト講師を招へい予定

5月中旬～8月上旬

集中講義：開講日は決定次第記載
します。

本講義では、AMDAによる派遣講師陣からの実際の災害医療の現場での活動の講義を受け、生死について考える時間を設けることで、災害に直面した人々への洞察を深めます。さらに、災害医療の現場について、想像力を働かせることができるように、現状に応じた柔軟な考え方や対処の仕方を身に着けます。最終的には、様々な状況に生きる人々への理解を深め、人命を尊重する見識を深め、災害に対応する社会システムについて理解を深めます。

開講のねらい 人命、医療、災害について多角的に考える視点を身につける。

関連キーワード 「災害医療」、「人命尊重」、「社会システム」、「想像力」

受講形態

社会人
他大学学生

対面またはオンデマンド
(対面推奨)

本学学生

対面のみ

教科書・テキスト等 適宜資料を提示もしくは配布します。

ディスカッションの
頻度・割合等

ディスカッション 頻度	なし
ディスカッション 割合	なし
個人発表	なし
チーム発表	なし
ロールプレイング	なし
受講に必要な知識や学習経験の有無	なくてもよい

受講上の
留意事項

◆講義後、レポートの課題提出があります。